



いとうの杜新聞

令和7年10月号

介護老人保健施設 いとうの杜
短期入所生活介護 いとうの杜
居宅介護支援事業所 いとうの杜
通所リハビリテーション いとうの杜
2025年10月15日 発行 第175号



9月15日、敬老の日おめでとうございます。

(令和7年9月15日現在)

いとうの杜では、入所者様135名中80才～99才までの方が109名、100才以上の方が5名いらっしゃいます。今年最高齢の方は104才です。いつまでもお元気にお過ごしくださいね。

敬老の日に合わせて各フロアでは、敬老会が行われていました。ショートステイの様子をご覧ください。

9月14日ショートステイにて敬老会を開催しました。今回は誕生日会も兼ね、「玉川貴子ショー」&「辻カフェ」のコラボ企画です。第一部では、玉川定番の日本舞踏と三味線を。本日初出しの舞踏*「吾妻八景」を舞い、三味線では2曲、玉川による替え唄を用意しました。

「東京音頭」→「いとうの杜音頭」、「炭坑節」→「もり節」を披露。炭坑節の替え歌の2番は我ながら良く書けた歌詞だと自画自賛。「♪～個性派揃いの～職員が居れば笑顔の花が咲くサノヨイヨイ♪」皆様口を揃えて「いい歌詞だね～」と感心されていました。乗りに乗ってきたところで三本締めで終了し、第二部突入。



辻カフェでは、ショートステイスタッフ辻井氏こだわりの豆で淹れる評判の美味しいコーヒーと誕生日会を兼ねているので市内で調達のショートケーキを。コーヒーの香りに包まれ、ケーキを召し上がり、皆様笑顔が咲き乱れていました。

*「吾妻八景」とは

江戸の八景を四季の移り変わりと共に歌った長唄の代表的なひとつです。日本橋、御殿山、高輪、駿河台、浅草、隅田川、吉原、池ノ端の風景を歌い上げています。



演舞者 玉川貴子

いよいよ始まる いとうの杜祭り

お待たせ致しました。第14回いとうの杜祭りが開催されます。

10/26 (日) 正午

*駐車場には数に限りがございますので、満車の際はお近くの有料駐車場をご利用ください。

*雨天の場合、規模を縮小し、館内ホールで行います。出し物もあります。屋台も営業いたしますので、ぜひご来場ください。



出し物

いとうの杜
スタッフ演舞

伊東大田楽
演舞

熱海高校
エイサー部

屋台

肉まん

焼きそば

じゃがバタ

やきとり

他

たこ焼きパーティー(6階)

職員が目の前で作るたこ焼きに、皆さん興味津々。香ばしい香りが広がる中、出来立てを召し上がっていただきました。

僕が作ったたこ焼きは大好評で、普段お食事が進まない方もとても楽しそうにおいしそうに舌鼓を打っていました。ソースや青のりの香に包まれてまるでお祭りのような雰囲気のひとつとなりました。

たこ焼き担当スタッフ



パンケーキまつり(2階)

今回のレクリエーションはとても良かったと思っています。利用者様はストロベリーやマンゴーを召し上がる機会が少ないため、今回のこの豪華なパンケーキを見てとても喜んでくださいました。笑顔で同席の利用者様と楽しく会話しながらおなかいっぱいになられたようでした。この姿が見られて私もうれしくなりました。「うれしい!」「すご〜い」「おいしいね」(^^♪

パンケーキ担当 クレスナ



新人さん紹介

9月に入職いたしました管理栄養士の山田奈緒子と申します。

秋らしい陽気になり、毎日徒歩通勤を楽しんでいます。休みの日には、ねことのんびり過ごしたり娘の部活の試合の応援へ行ったり、大好きなドライブをして過ごしています。時々、独り暮らしをしている息子たちの住んでいる町まで出かけ、おいしいものを食べて休日を楽しんでいます。毎日の生活の中で少しでも楽しみになるような食事が提供できるよう、安全を第一に勤めてまいります。まずは皆様のお名前を覚えたいと思います。よろしくお願いいたします。

管理栄養士 山田奈緒子

10月のレクリエーション と行事予定

通所	誕生日会	10/9 (木)	10/15 (水)
	秋だ!運動会だ!	10/10 (金)	
5階	午後のティータイムはスイートポテトパンケーキ	10/7 (火)	10/23 (木)
	誕生日会	10/15 (水)	
6階	ひと足早いハロウィン駄菓子バイキング	10/8 (水)	



移動美容室「クランチケア」さんがいとうの杜に来ます。
10月 2日(木)
10月 21日(火) 午後のみ営業
10月 27日(月)
ご希望の方は各フロアスタッフまで!!

皆様と一緒に楽しい紙面づくりをしていきたいと思います。
ご意見や投稿などお待ちしております!

〒414-0002 伊東市湯川 288番地9

ホームページ

「いとうの杜新聞」編集部まで

<https://www.itou-mori.jp/>

電話 0557-35-4165 FAX 0557-35-4101



脱出せよ！南アルプス 農鳥小屋滞在記 ②

間ノ岳へ向けて稜線歩きが始まった。雲海に浮かぶ富士を共に連れての天空の散歩である。百花繚乱の高山植物と、下界の喧騒を離れた別天地。私にとっての天国とはこういった場所である。北岳山荘を通過し、標高3,055mの中白根山に到着する。振り返ると日本標高第二位の北岳の金字塔が天を突いている。北岳を眺めるのに一番良い場所は中白根山のように思える。均整のとれた三角形が美しい。堂々と威厳を示すというより、どこか控えめで知性的な様相を呈していて、両翼に甲斐駒ヶ岳と鳳凰山を従えた姿は絶品である。景色を堪能した後は、山脈を南下して間ノ岳の懐に入っていく。キリっとした北岳と比べると間ノ岳は尾根が幅広く力強い。前者を義経と例えるならば後者は弁慶と呼ぶのが良いだろう。間ノ岳は以前、日本標高第四位の山であったが、近年の再測量により北アルプスの奥穂高岳と並び同率三位となった。海底の隆起によって毎年4mm程度押し上げられていることがその理由である。プランクトンの死骸が堆積したチャートという岩石が散見されるのも、かつてはここが太古の海の底だったことを物語っている。

幅広い間ノ岳の稜線を右往左往しながら進んでいく。ここは濃霧時に道迷いが頻発し、遭難事故の危険地帯である。晴天であっても似たような景色が続く、道標のペンキマークを見落とさないように注意が必要だ。午前十時、白根御池小屋から六時間かけて間ノ岳の頂を踏む。間ノ岳はどの登山口からも遠く、通過時刻が遅くなる傾向があり、正午を過ぎると夏は雲が迫り景色を楽しめない場合が多い。早出を心がけた結果、快晴の間ノ岳を我が物にすることができた。容姿端麗な北岳と墨絵に描いたような富士山の眺望が、この山頂の素晴らしさを引き立てている。西側の伊那谷からは中央アルプスが屏風のように立ち上がり、進行方向には最後の砦である農鳥岳がそびえ、南アルプスの長大な山脈は太平洋に向かってその尻尾を落としている。まったく東西南北と隙間のない贅沢な展望である。

間ノ岳山頂から標高を400m程降りると宿泊地である農鳥小屋に到着する。ここの管理人であった深澤さんは「農鳥オヤジ」と呼ばれ、登山界では有名小屋番として知られ、数々のエピソードを残してきた。小屋前のドラム缶に腰をかけ、双眼鏡越しに登山者の歩き方を見て「あいつはノロマだな」だとか「まずまずだな」などとチェックするのが日課であり、到着が遅くなった登山者に対しては「いま何時だと思っているんだ」と叱りつけ、通過しようものなら「死ぬぞ、泊っていけ」と足止めをしていた。登山者はお客様にあらず。自然の恐ろしさを軽視する者は許さない、古来の小屋番らしい厳格な方であったそうだ。現在は引退をされて、麓の日本一人口が少ない町である早川町で甲斐犬二頭と暮らしている。山を下りても日課は変わらず、道路脇に座り下山後の登山者を眺めている（私も下山後にお会いした）。他にも隙間風が入る傾いた寝床や、崖の奈落に向かって穴が空いているだけのトイレなど、長い歴史を刻んだ農鳥小屋は、ある意味魅力がいっぱいである。テントの受付を済ませる。若く柔らかい性格の管理人に対応してもらった。設営場所を探していると、風避けになるようにハイマツに囲われた一等地があった。他者のテントからも離れた天然の個室である。小屋泊は他人と川の字で寝ることになりプライベート空間がない。いびきがうるさい人を隣に引き当ててしまったら後は悲惨なものである。夕陽を浴び一刻と姿を変える山並みを眺めながらビールを飲み、心が空っぽに澄んでいく。何も人生に不満を感じず、ただ生きていて良かったと思える最高の時間である。夜は満天の星空になり、脳内には朝焼けに浮かぶ富士山を農鳥岳から仰ぎ見る光景が浮かび、夢の中に消えていった。

<まだまだ続く>

伊豆の登り人

見えないが写真中央に写っている

農鳥岳と間ノ岳

富士山を望む

北岳と北岳山荘



行くぞ！万博 来たぞ！万博



OSAKA-KANSAI JAPAN
EXPO2025



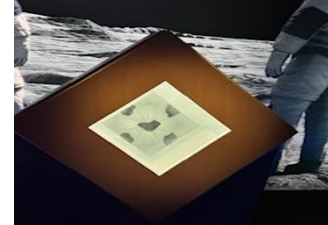
2025年4/13～10/13、日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されました。1970年の大阪万博以来55年ぶりの開催となりました。55年前の万博は私はまだ生まれていないので思い出はありませんが（太陽の塔、世界の国からこんなにちはなどは知っています）この新聞の読者の皆様の中には懐かしい思い出がある方もいらっしゃるのでは？来場者は6421万人、当時の日本の総人口の6割以上が訪れたことになるそうなのでちょっと驚きです。ちなみに今回の万博の来場者数は約2300万人（10/2現在）閉幕まであと10日、来場者は日に日に増えているので最終的に何人になるかはわかりませんが6400万人には及びませんよね。改めて、55年前どれだけの人が集まったのか想像を絶します。私の万博の思い出は1985年の国際科学技術博覧会（通称つくば万博）当時、小学生でした。今思えば、万博とはなんぞや？の世界だったような気がします。なんだかよくわからない、けど科学と宇宙がちょっとだけ身近に感じた、今でも思い出すとワクワクできるような万博だったと思います。マスコットのコスモ星丸（今初めて名前を知った）グッズたぶん今でもどこかにあると思う！さて、万博とはなんぞやからうん十年、万博がなにかわかる立派な（？）大人になりました。まだまだ暑かった9月初旬、この頃になれば夏休みも終わってちょっとは人出も収まっているかしらと計画して行ってきました大阪万博！予想が完全に外れこの日の来場者数も10万人越え。（閉幕が近づいて毎日20万人越えの今、まだマシな数字）今回の万博、とにもかくにも情報戦。チケット取るところからデジタルを駆使しないと始まらない。そんなこんなで、わからないよ～とほったらかしにしていたらあっという間に1週間前。人気パビリオンには事前予約ができたのですが、それも結局できない、わからない、という事で予約が一個も取れず。正直、行く前はテンションガタ落ち（笑）会場に入るのにも並びに並んで（途中、多分、熱中症手前）もう完全に戦意喪失。今のところネガティブな感想しかありませんね💧だがしかし、大屋根リングを見た瞬間、ネガティブ感情が一瞬でぶっとびああ来て良かったと...（単純）各国のパビリオンの外観の壮大さにも圧倒されましたが、大屋根リングはすごい一言。なんてったって全部木で出来ているんですよ！！（語彙力がなさすぎる...）



写真②



写真③



写真④

写真① ミャクミャクと大屋根リング

写真② 大屋根リングの中

写真③ アメリカ館

写真④ 月の石

写真⑤ オーストラリアのビール



写真⑤

ここを歩くだけで来た甲斐があると思わせてくれました。予約全滅のパビリオンは頑張っって並んで2日間で6か所入れました。無理だと思っていたアメリカ館に入れたのは嬉しかったです。（3時間並びましたが）今回の万博の見どころとなる月の石もしっかり見てきました！食事はスイス館のハイジカフェに入り本場のチーズを食しました。昔、旅行で行って気に入って飲んでいたオーストラリアのビールにも出会え海外旅行気分もしっかり味わえました。多国籍の文化や芸術を身近に感じとても刺激的な時間を過ごすことができ、もっと勉強してから行けばよかったと心底思うくらい全体的に素晴らしい万博でした。つくば万博と同じように何年経ってもワクワクキラキラとした思い出として一生記憶に残る出来事になったと思います。帰りは台風に巻き込まれ新幹線、在来線共に止まってしまい、おまけに国道も通行止めと...危うく帰宅難民になるハプニングが起きましたがなんとか無事に帰る事ができました。旅人1号